

教員活動状況報告書

提出日：令和 4 年 3 月 3 日
 所 属： 獣医 学部 獣医 学科
 氏 名： 吉岡 亘 職位： 准教授
 役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

講義では公衆衛生学に含まれる環境衛生学を、実習では環境衛生学を中心として食品衛生学分野も含めて教えている。地球環境・地域環境・衛生学の歴史と現状を学ぶことで、受講者が、ヒトと動物の生命・生活を衛(まも)ることができるようになることを目指す。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医公衆衛生学Ⅲ	獣医学科	必	5	128
獣医公衆衛生学Ⅲ	獣医学科	必	4	147
獣医公衆衛生学実習	獣医学科	必	4	147
公衆衛生学	動物応用科学科	選	4	54
卒業論文	獣医学科	必	6	2
総合獣医学	獣医学科	必	6	160

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

講義では、現在および未来のよい選択の基盤となる知識を身につけられるように、過去の事例を学ぶ。また、変わりゆく制度や基準について、最新の情報を伝えるとともに、その背景にある考え方を合わせて伝えることで、ものごとを整理して理解できるようにする。加えて、必要な情報を得る手段についても学べるようにする。

実習では、環境衛生や食品衛生における検査および評価に取り組むことで、それらの原理について実感を伴う理解を得ることを目指す。目指すべきあり方として、より具体的には、手技を身につけ、実践上で生じる問題を解決し、データのバラつきや想定外の結果について理解し適切に対処できるようにする。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

過去の事例および現時点の制度は、効率よく学べる形によく整理して提示する。その上で、経緯や理由については、試行錯誤して考える時間をしっかり設ける。また、理解を問う小

試験をできるだけ積極的に実施する。総合して、必要な知識を要領よく獲得した上で出来るだけ深い理解が得られるようにする。

アクティブラーニングについての取組

レポート提出を課し、資料の選択や制度等の理解および考察について講評を返すようにしている。

講義の後に、講義の内容の理解を問う小試験を課している。この小試験は提出後にすぐ結果が分かるようにしてあり、かつ、繰り返し取り組めるようにしている。これらのことによって、十分な理解が得られるまで自主学習できると期待している。

ICT の教育への活用

講義内容をまとめた資料をファイルとして提供している。これにより、紙資源の節約や資料内検索による効率的な学習ができるものと期待している。

教室内での講義を遠隔でも視聴できるようにしている。また、講義を動画に保存して受講生に提供している。必要に応じて繰り返し復習できる状況を ICT により作ることができているのではないかと考えている。

小試験をウェブ上で受けられるようにしている。結果が自動的に即時に出るようにしてあり、短い期間で繰り返して集中的に学べるようになっている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C）：C

問いかけや疑問を提示して考えさせる時間を設けるようにしている。

②学生の理解度の把握（A～C）：B

小試験を実施している。受検後にすぐ結果が本人に分かるようにすることで、理解が不十分な点を直ちに改善できると考えている。さらに、正答率が低い問題について、次の講義の機会にあらためて説明を加えることで理解度を向上させるようにしている。

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C）：C

レポート課題や小試験を課している。これらは自主学習として位置づけている。一方で、アンケートによる自主学習に関する評価が低くなっている。より工夫を凝らして、自主学習を促すべきなのだろうと考えている

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C）：B

質問に対しては丁寧かつ機を逸しない内の回答を心掛けている。今後についてはより質問をしやすい状況を作るようにしていきたい。

⑤双方向授業への工夫（A～C）：C

教室および遠隔で受講するハイブリッド形式で講義をしており、質問できるように形式上はなっているが、実際に反応があることは稀である。工夫をすべき余地が大きいと感じている。

講義内容は、資料を穴埋めにしたり、問いかけをする状況を作ったり、一定の工夫をしている。これらの工夫が有効性についてはよく分からない。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

実習では、国家試験に取り上げられた検査方法および取り上げられそうな器具を用いるなどしている。講義では、国家試験で問われやすい国際条約などの事項や時事的な事柄などについて特に重点的に解説している。また、小試験の問題も国家試験の形式や内容を踏まえて作っている。

5.学生授業評価（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

講義内容が広すぎるのではないかという疑問/要望があった。あらためて内容を精査するとともに、関連分野との境界にある事項については、内容の振り分けについて丁寧に説明することを心掛けた。

② ①の結果はどうでしたか。

重ねての要望はなかった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

要望や疑問が出たことに関しては予め対応する。

6.学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

授業内容をまとめた配布物はできるだけ早く提供する。講義内容を詰め込み過ぎないように注意を払い、説明に軽重を付けるように心がけている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

九割以上の受講生が B 以上の成績を修めた。意欲と能力に比して問題が簡単すぎないか詳細な検討が必要ではあるが、理解すべきと設定した内容は理解できた可能性があると考えている。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）（分量の目安：1～2 行（40 字～80 字））

昨年度 FD 研修を視聴した。本年度の FD 講演会『2021 年度後期授業実施に向けて』に参加した。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

講義について、短期的にはまず、内容の絞り込みをおこないたい。その上で、体系立ててわかりやすい構成を考えたい。長期的には、詰め込むより自分で調べ、その内容が身につくような課題を考えていきたい。

実習では、原理原則が理解できるような解説と実際に行う実習とを組み合わせ、実感を伴う理解が得られることを目標とする。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

シラバス， 學理での小テスト， レポート課題， 試験問題， 講義資料， 學理での授業アンケート， 講義受講生からのメールでの質問とその回答， 研究室内での講義資料事前検討

●FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

有・無

該当を○で囲む

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス、小テスト、宿題、レポート課題、試験問題、教材（配布資料、パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡